

塩谷町公共下水道中止へ 財政難で休止状態 県評価委「妥当」

(9月8日 05:00)

塩谷町が一部事業に着手したものの、財政難などを理由に休止となっている町公共下水道^{48件}について、県公共事業評価委員会(委員長・中島章典宇都宮大大学院教授)は7日までに、「事業の中止が妥当」との意見書をまとめた。同町はこれを踏まえ、近く事業中止の手続きに入る。

同事業は2003年に都市計画決定。国道461号沿いを中心に3200人分の下水を処理する計画だった。全体事業費は22億円。このうち4千万円を測量などで既に投入した。だが同町は予算規模の縮小や地方債残高の増加、優先度の高いほかの事業への支出などの理由で、04年度から休止していた。

完成までの事業期間が長期に及ぶこともあり、同町は下水道^{48件}と同等の浄化能力があり早期に普及可能な合併処理浄化槽の普及促進を検討してきた。町の負担が少なくなる利点もある。

同町建設水道課は「中止の方向で検討していただきたいとして(同委員会に)諮問した。お墨付きを得たので、意見書に沿って事業中止としたい」としている。

県によると、同委員会が公共事業中止の判断を示したのは今回が3回目。過去には03年の県営東大芦川ダム(鹿沼市)、06年の県営大室川生活貯水池(那珂川町)がある。